feel TEIKYO

あなたにつながる帝京大学　撮影・市橋織江

今乗っている飛行機にも帝京大生が関わっている!?

新緑にまぶしいオレンジ色のつなぎ姿。この8人、いったい何をしているのだろう。よく見ると翼があり、プロペラがあり、それに連動したペダルがある。この装置が人を乗せて空を飛ぶのだ。ここは栃木県宇都宮市にある帝京大学理工学部の模型飛行場。作業をしているのは学生による人力飛行機サークル・ＳＫＹＰＲＯＪＥＣＴのメンバーである。ライト兄弟が世界初の有人動力飛行を成功させた１９０３年から１００年あまり。ここでも、鳥のように自由に空を飛びたいという願いが脈々と受け継がれている。「想像以上に大きいですね」と驚いていると「まだ組み立て途中ですから。完成すると横幅が32ｍにもなりますよ」と答えてくれた。部長の山道修一さんである。毎年琵琶湖で開かれる『鳥人間コンテスト選手権大会』では、この機体で彦根の湖岸から飛び立ち、1km先にあるブイを旋回して戻って来るタイムトライアルに挑戦する。1年間のすべてを、その瞬間に懸けるのだ。人力飛行機のポイントは、翼とプロペラ、全体の強度の3つが、最高のバランスでデザインされることだという。「理想的な翼の角度やプロペラの推力など、ひたすら数値と格闘して、気がついたら朝になって小鳥がチュンチュン鳴いていることも（笑）。でも完成したときの喜びは格別なんです」。この後、様子を見にやってきた顧問の大森教授は、子供の頃からロケットに憧れ続けた筋金入りの工学博士。30代をアメリカの研究所で過ごし、今年のスペースシャトル・エンデバー号帰還の際には、ＮＡＳＡで、帝京大学の学生と共に感動の現場に立ち会ったという。「僕もかなりマニアックな方ですが、彼らはもっと情熱的ですね。飛行機というプロダクトは極限の技術を追究するものですから、さまざまな工業分野で活躍できる優秀な人材が育ちやすいんです。ここでの経験は将来とても役立つと思います」。先程の山道さんの言葉が浮かぶ。「卒業後は航空機の整備士になるのが夢なんです」。整備士として活躍する大学の先輩からは、40代50代になっても、まだまだ勉強することがたくさんある仕事だと聞いたとか。実際の航空機とは、それほどまでに万全を期さなければならない存在なのだ。飛行機のことを考えているだけで幸せになれると言う彼ら。あなたが乗っているこの飛行機も、ここから羽ばたいていった学生が関わっているかもしれません。飛行機が好き。そんなシンプルで強い思いが、彼らの夢を叶えるのです。

帝京大学入試センター
TEL.03-3964-3031
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

高校生＆帝京大生が参加できるNASAツアー
6泊8日のNASA体験ツアーを帝京大学が企画。間近で見るシャトル発射台など、宇宙を感じるチャンスです。
→028-627-7123（宇都宮キャンパス学生サポートチーム）

帝京大学をもっと感じるマガジンをプレゼント
心地よい写真と情報が満載のキャンパスマガジン『feel TEIKYO 2009 Campus Life Ver.』をプレゼントします。
→03-3964-4162（本部大学PR推進室）